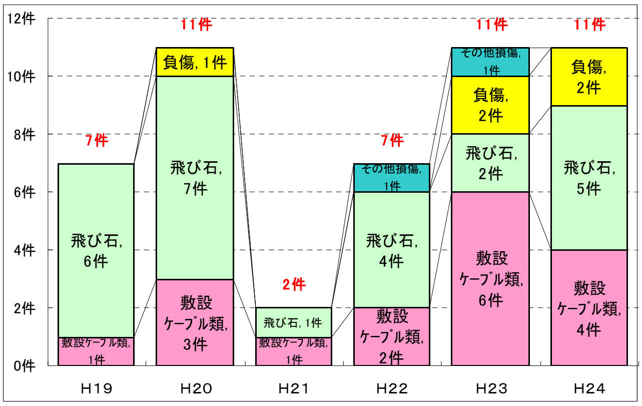
あんぜん

第２２５号
平成２４年１０月

近畿地方整備局
発行：企画部 技術調査課

除草作業中の事故が続発！

飛び石による事故に加えて、昨年多発した敷設ケーブルの切断事故が今年度続発しています。
これらの事故は、飛散防止ネットや作業前の事前確認等を徹底することで、大幅に減少させることが可能なものであり、再度作業手順を確認し、全ての作業員に徹底しましょう。



図：除草作業時の事故発生状況

除草作業における事故発生状況

■１０月２５日時点で、既に平成２３年度通期の１１件と同数の事故が発生しています。

■飛び石事故では、肩掛式草刈機による飛び石に加えて、自走式草刈機による飛び石事故が発生しています。
自走式等の大型の機械では、肩掛け式草刈機に比べて飛散範囲が広範囲になる恐れがあり、作業手順において**ガード等の確実な装着に加え、通行車両や歩行者、民家周辺での一時停止や肩掛け式や手刈りの併用等飛び石の発生を十分考慮する**必要があります。

■人身（負傷）事故２件は、肩掛け式草刈り機における近接作業員の刈刃による事故やキックバックによる自傷事故であり、**肩掛式草刈機の使用に際し、①作業範囲の立入禁止、②キックバックへの注意等基本的な注意点の徹底**が不足していた事が主な原因です。

■敷設ケーブルの損傷事故は、草等に隠れたケーブル類に気付かず肩掛式草刈機の刈刃で切断する事故が大半で、①管理者への支障物件の確認、②作業箇所の事前確認等により十分防止できます。
道路及び河川内のケーブル類は、道路交通や河川管理等の防災業務に関わるものであり、場合によっては重大な影響を生じる可能性があるため、**「河川・道路の管理施設周辺」にはケーブル類がある、という前提に立ち、確実な事前確認を徹底**しましょう。

事故事例①

飛散防止ネットを超えて飛び石が飛散

【事故概要】
歩道柵下の刈払い中に、歩道柵柱に当り、バウンドしたと思われる飛び石が飛散防止ネット（H＝1.5m）上をを通過し、通行中の車両助手席側窓ガラスが損傷した。

事故対策案　（詳細は現在調査中です）
・刈刃をバリカン方式に交換する
・飛散防止ネット上部に忍び返しを取り付ける
・車両近接時は作業を一時停止する

事故事例②

樋門際の流向計のケーブルを切断

【事故概要】
肩掛式草刈機により樋門周辺整備のための刈払い中、樋門堤外水路上に設置されている流向計のケーブルを誤って切断した。

事故対策案　（詳細は現在調査中です）
・作業前に配線類をポールやリボン等で明示する
・支障物周辺は手刈りを行う

（裏面につづく）

強風により仮囲いが転倒！

現道に面して設置していた飛散防止対策用の万能板及び、騒音対策用の防音シート(ビティ足場)高さ5．４ｍ、延長約20ｍが、強風により町道側に転倒したが、幸い通行車両や歩行者はなく被害はありませんでした。

受注者は設置にあたり、施工ヤード側に根固をとって対策を講じていましたが、事故当時強風（風速15 m/s 程度）が吹いており、転倒したと思われます。〔詳細は調査中〕

転倒前の設置状況

転倒時の状況

４月にも同様に強風で仮囲いが転倒して民家が損傷する事故が発生しており、各現場においても仮囲い等強風の影響を受けやすい施設については、必ず風荷重を十分考慮した設計に基づく構造にすると共に、強風が予想される場合には、**シート等を外すなどの強風対策を実施するとともに定期的な巡視・点検を実施しましょう。**

H24年4月発生　事故事例

〔事故概要〕

強風により仮囲い（防音シート張）が倒れ、民家2軒が損傷した。受注者は風荷重に対する検討を怠り、強風が予想されていたにも関わらずシートを外していなかった。

強風対策7箇条　（再掲載）

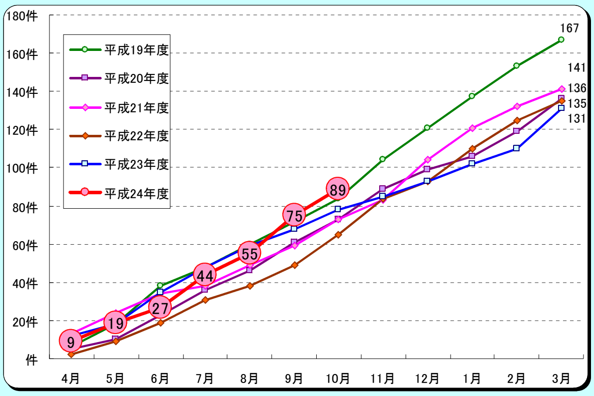
①保安施設にご用心　カラーコーンなどが転倒、飛来し、接触の危険があります
②高所の風はよりきつい　地上で風が弱くても、高所では強風の場合があります
③風は火花を運びます　溶接時の火花が飛散し、火災の原因になります
④クレーン、足場は風に弱い　風圧を大きく受けるので、転倒、逸走、崩壊の危険があります
⑤海岸、河川は要注意　波浪により施設等が流出するおそれがあります
⑥強風が吹いた後には危険あり　足場等にズレ、傾きが生じているおそれがあります
⑦点検巡視は複数で　点検中事故にあった場合、単独では連絡が取れません

７月以降、過去最悪のペースで事故発生が続いています！

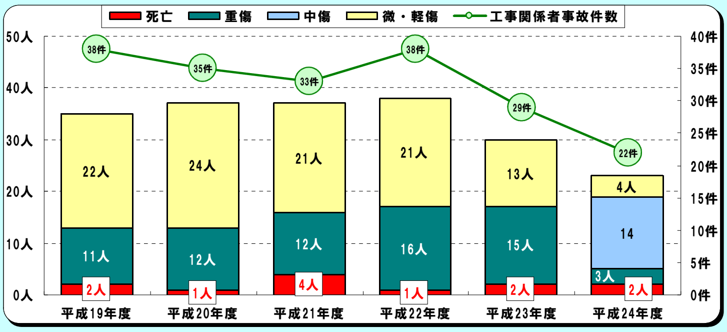
先月号でも紹介した通り、近畿管内の事故発生件数は**7月以降例年を上回るペースで発生しており、未だ過去最悪のペースで推移しています。**

特に工事関係者事故の発生件数は例年を大きく上回り、**中・重傷者の比率が高まっています。**

各現場で監督・職長等指揮・監督にあたられる関係者は、特に高所作業及び重量物や草刈機等危険な機械・工具を取り扱う作業において、再度作業手順を点検・指導し、KY活動等の安全教育活動の取り組みを充実しましょう。　（下表は10/25時点速報値）



表－１　年度別　事故発生件数



表－２　年度別工事関係者事故の負傷の状況

＝参考＝　作業員の疾病等にも十分に配慮願います

１０月に入り、交通誘導員２名（70歳代２名）と作業員１名（40歳代）が現場で倒れて亡くなっています。

現時点では、外傷等は確認されておらず、心筋梗塞等の疾病によるものと見られ、事件・事故の可能性は低いと思われますが、健康診断の実施や朝礼時の健康確認の実施に加えて、作業環境等について十分な配慮をお願いします。